２０２０年３月２７日
行　政　報　告　資　料
政策経営部企画政策課
経営改革室

「（仮称）２０４０なりたい未来」（基本構想）の骨子について

２０１９年５月に策定方針を定め、町田市基本構想・基本計画「（仮称）まちだ未来づくりビジョン２０４０」の策定を進めております。策定にあたり、市民の皆様との意見交換などの取組を進めるとともに、町田市長期計画審議会においてこれまで審議をいただいております。

今回は、主に第３回と第４回で審議された基本構想部分である「（仮称）２０４０なりたい未来」の骨子について報告します。

１　町田市長期計画審議会の主な審議内容

（１）第１回　２０１９年　８月１９日
- 諮問
- 策定方針や社会経済状況の変化、行政経営改革などについて

（２）第２回　２０１９年１０月１１日
- （仮称）まちだ未来づくりビジョン２０４０の構成について
- まちづくりの方向性について
- 行政経営の方向性について

令和元年第４回定例会において行政報告

（３）第３回　２０１９年１２月１６日
- まちづくりの方向性について
- なりたいまちの姿（都市像）について
- 行政経営の方向性について
- 行政経営のあり方（経営像）について

（４）第４回　２０２０年　２月　３日
- なりたいまちの姿（都市像）について
- 行政経営のあり方（経営像）について
- 基本構想の骨子案について

令和２年第１回定例会において行政報告

２　「（仮称）２０４０なりたい未来」

（１）「（仮称）２０４０なりたい未来」の構成について　・・・・別紙１
（２）まちづくりの方向性について・・・別紙２－１
（３）行政経営の方向性について・・・・別紙２－２
（４）なりたいまちの姿について・・・・別紙３
（５）行政経営のあり方について・・・・別紙４
（６）「（仮称）２０４０なりたい未来」（基本構想）骨子案　・・・別紙５

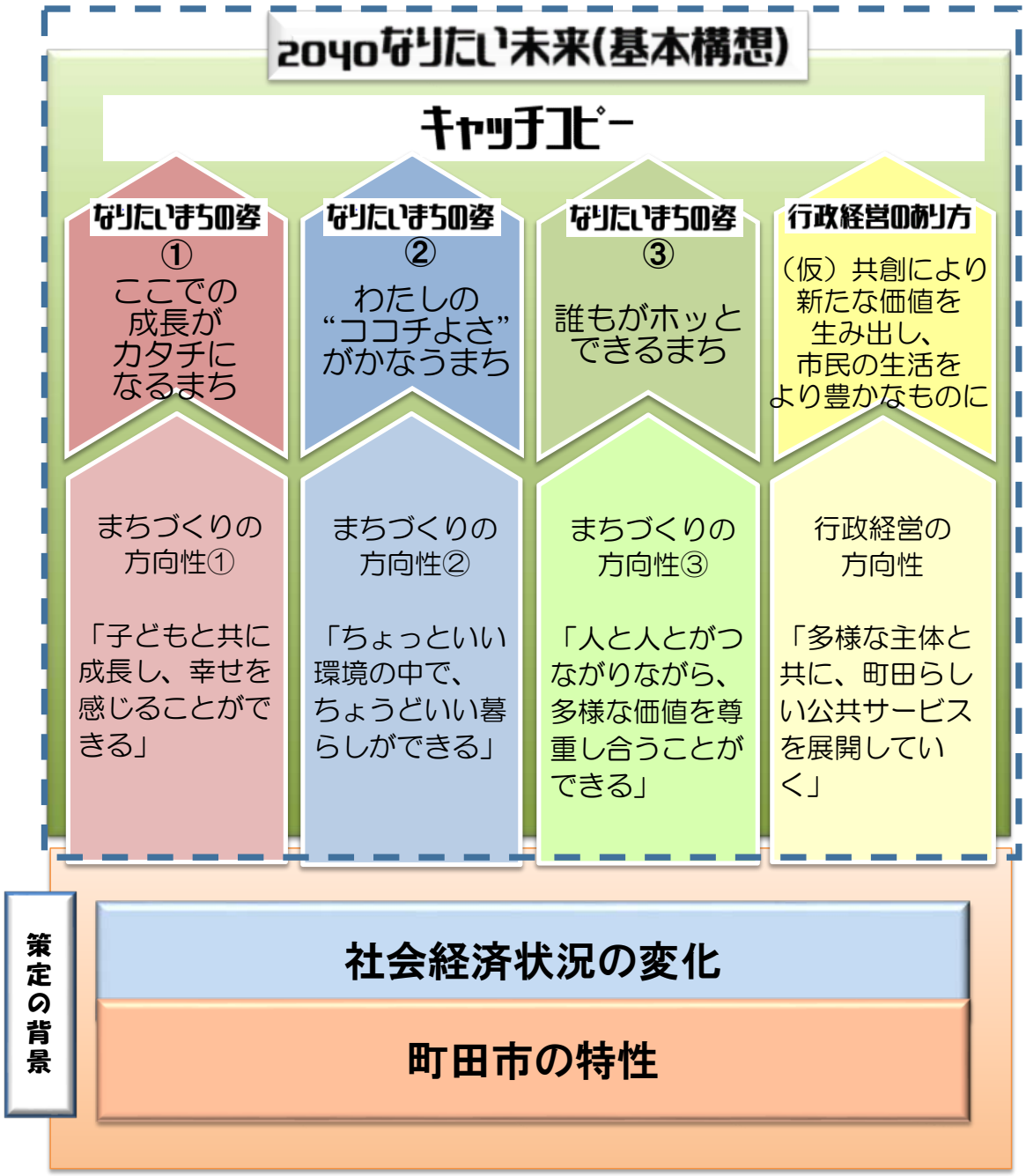
３　今後の策定スケジュールについて

（１）「（仮称）まちだ未来づくりビジョン２０４０」策定スケジュール概要・・別紙６

別紙１

「（仮称）２０４０なりたい未来」の構成について

「（仮称）２０４０なりたい未来」は、まちづくりの方向性となりたいまちの姿、そして、行政経営の方向性と行政経営のあり方を示すとともに、2040 年の未来の町田市のイメージをキャッチコピーとして定めます。



■まちづくりの方向性と行政経営の方向性について

別紙２－１

2040年に向かって、町田市のなりたいまちの姿や行政経営のあり方を描くためには、市を取り巻く社会経済状況の変化を好機ととらえ、市の特性を生かしながら、まちづくりや行政経営の進むべき方向を明らかにする必要があります。

これまでの町田市のまちづくりは、暮らす人、働く人、訪れる人など、多くの「人」によって支えられてきました。そして、それはこれからも変わらないことであり、多様であることが当たり前の社会においては、一人ひとり生き方の違う「人」が、それぞれのライフステージにおいて活躍できる環境があることがより重要になってきます。このことを踏まえ、誰もが夢を持ち、その夢を実現できるまち、一人ひとりが輝けるまちとなるため、町田市が考えるまちづくりの方向性と行政経営の方向性を示します。

1　まちづくりの方向性

（1） 子どもと共に成長し、幸せを感じることができる

人口減少という課題に直面する中、2019年度に行った調査では、町田市の希望出生率は1．91という結果が出ています。これに対して合計特殊出生率は1．24前後を推移していることから、子どもを産み育てたいと考える人たちの希望が叶っていない状態にあるといえます。

また、将来的にも人口減少が続くことが推計で示されていることから、これから先、町田市は行政サービスを提供している基礎自治体として少子化対策に取り組み、子育ての希望を叶えていく必要があります。

町田市で子どもを産み育てていきたい、また、2人目、3人目をもうけたいと思えるためには、子育てへの不安を払拭できるような、お互いを信頼でき、幸せを感じられる社会であることが求められます。様々な支援があり、ここでなら安心して子どもを産むことができる、子どもが健やかに成長していってくれるという確信が持てる社会であれば、自ずと出生数は増えていきます。

また、子どもの周りに、こうなりたいと思えるような素敵な大人がいることや、自分に関係するまちづくりに参加できること、安全・安心な環境があることなどが、子ども自身がここで育っていきたい、育ってよかったと思えることにつながり、将来の転出抑制、転入促進にもつながっていきます。

人口減少時代にあっては、このように、大人も子どもも未来への希望が持てること、このことを大事にしていく必要があります。

これから先、町田市が持続可能なまちであるためには、少子化という問題を避けては通れません。このことに果敢に取り組む姿勢を示すとともに、町田市で生まれ育った子どもたちに次代の町田市をつくっていってほしいという願いを込め、（仮称）まちだ未来づくりビジョン2040では、「子ども」を起点に、まちづくりの方向性を考えていきます。

子どもにやさしいまちは、高齢者や障がい者など、みんなにやさしいまちです。町田市は2040年に向け、親や祖父母、地域など、子どもを取り巻く様々な主体が、子どもと共に成長し幸せになっていくことができるまちづくりを進めます。

（2） ちょっといい環境の中で、ちょうどいい暮らしができる

2040年を見据えたとき、AIやICTに代表されるテクノロジーの更なる発展、一億総活躍社会の実現に伴う働き手の多様化など、私たちの日々の暮らしや仕事のあり方は今とは大きく異なっていることが予想されます。

時間や場所などにとらわれないライフスタイルが前提となったとき、生活の拠点として町田市が選ばれていくためには、人を惹きつける価値を提供できるまちである必要があります。

長く都心のベッドタウンとして人々の生活を支えてきた町田市が提供できる価値を考えたとき、それは特別な何かではなく、居心地のよさや気楽さ、ちょうどよさを感じられる日常というものなのではないでしょうか。

日常の中にあるといいちょうどよさとは、例えば、働くということにおいてであれば、サテライトオフィスやコワーキングスペースなど、近くに働ける場所やビジネスパートナーを見つけられる場所がある、どこかへ出向く際は快適に移動できる交通基盤がある、仕事帰りに買い物や食事を楽しめる魅力的なお店があるなど、ちょっといい環境があるということが挙げられるかと思います。

一方、働き方の変化などによってもたらされる仕事以外の時間、言うなれば自分の時間をどのように充実させるかということも非常に重要です。この点では、みどりを身近に感じることができる、各地域で面白いイベントがたくさんある、誰かのために活動する機会を得ることができる、それらへの交通アクセスが充実しているなど、暮らしを豊かにする物事が周りにたくさんあり、また、それを思い立ったときにすぐ実行できる、ちょうどよく手に入るということが大事になってきます。

都心から程近く、都市機能と自然環境が共存し、広域交通にも恵まれている町田市は、仕事の時間や自分の時間の過ごし方の選択肢がたくさんあり、それぞれにちょうどいい暮らし方を選べるまちです。

2040年に向け、このポテンシャルを更に引き出し、住む人、働く人、学ぶ人、近隣に暮らす人たちまでもがワクワクできる、職住近接に暮らしの楽しさをプラスした生活の拠点となるような、“いいことふくらむ”まちづくりを進めます。

（3） 人と人とがつながりながら、多様な価値を尊重し合うことができる

私たちの暮らす社会は、子どもから高齢者まで、多くの方が支え合うことで成り立っており、2040年になってもそれは変わらないでしょう。 誰もがかつては子どもであり、歳を取れば高齢者になります。支える側、支えられる側のどちらにもなり得ることを思えば、自然と支え合いができているような関係性がいつの時代も求められているといえます。

一方で、家族のかたちや友人との距離感、地域との付き合い方など、支え合いの土台となる人と人とのつながりは、時代と共に変化するものでもあるため、それらを受け入れ、みんながゆるやかにつながれることが、まちの魅力の一つとなります。

また、風水害や地震などの大規模災害が発生した際にも、助け合える仲間がいるということは、まちに暮らす人々にとって大きな安心となります。このような点からも、普段は意識していないけれど、いざという時にみんなとつながれるということは、非常に重要であると考えられます。

性別、年齢、国籍などの違いに加え、生き方や信条、住み方の違い、あるいは、地域と積極的に関わっている人、そうでない人など、町田市には様々な人が暮らしています。お互いを認め合い、地域とのつながり方を選びながら、それぞれの持てる力を発揮できる、そんな地域であれば、生涯住み続けたいと思える愛着が生まれるのではないでしょうか。

更に、多様な人たちが、多様な考え方の下、地域資源の使い方や安全・安心への取組など、自分たちで必要なことを考えて地域をつくり続けていくことができれば、お互いに学び合い、高め合うことで、地域に化学反応を起こせるとともに、まちへの誇りや責任を持つことにもつながると考えられます。

多様性を認め合うことが当たり前の時代にあっては、地域にも多様なあり方があって然るべきであり、そこから新たな価値が生まれてくるはずです。

2040年に向け、このように、温かい人と人とのつながりがあり、どこか懐かしいけど新しさも感じられるまちづくりを進めます。

２　行政経営の方向性

多様な主体と共に、町田らしい公共サービスを展開していく

町田市の総人口は、今後、減少局面に移行していくとともに、団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年頃に高齢者人口がピークを迎えることが見込まれています。

高齢者人口の増加は、医療・介護給付、生活支援等のニーズを高める一方で、人口減少は、日常生活や事業のために必要な担い手を確保することが難しくなるなど、公共サービスの需要と供給の両面において大きな変化をもたらします。

そこで、これまでの行政経営のあり方を改めて見直し、これらの変化に適応したものへとデザインし直す必要があります。

また、AIやIoT、ロボットなど最先端テクノロジーの進化は目覚ましいものがあります。最先端テクノロジーを駆使して様々な工夫を凝らし、社会に実装していくことができれば、市民の生活を快適で利便性の高いものとしていくことが可能となります。加えて、IoTなどにより集約した様々な情報を分析することで市民ニーズを的確に捉え、必要な人に、必要なサービスが、必要な分だけ提供できるようになり、地域の課題に効果的に対応していくことが可能となります。

行政経営においても、このような最先端テクノロジーの取り込みを強力に推進し、市民に上質なサービスを提供していくことが求められていきます。

更に、市民のライフスタイルや価値観は、今後も変化・多様化していくことが予想されます。あらゆる公共サービスを行政だけで提供していくのではなく市民、地域、事業者など、まちづくりに関わる多様な主体との連携を深め、これまでにない多様なサービスを生み出すことができれば、市民一人ひとりのニーズに適したきめ細やかなサービスを提供していくことが可能となります。

そのためには、まちづくりに関わる様々な主体が連携し合う仕組みをつくり、人や企業の多彩な知恵と行動を結集して地域課題に対応していくことが重要だと考えます。

このことにより、町田市の持つ魅力や強みを活かしたサービスを提供していくとともに、複雑化・高度化する行政需要に柔軟に対応するしなやかさと、困難な課題に立ち向かう力強さを兼ね備えた持続的かつ安定的な行政経営を進めます。

■なりたいまちの姿について

別紙３

なりたいまちの姿①

ここでの成長が カタチになるまち

２０４０年という未来のまちの中心的な役割を担い、第一線で活躍しているのは、いまの子どもたちです。人口減少が進む中、子どもたちがずっと住み続けたいと思えることは、将来にわたり選ばれるまちの重要な要素となります。

子どもの頃の素敵な思い出は大人になっても忘れないものです。町田市は、子どもたちに様々な経験やチャレンジの機会を提供していくとともに、自由で柔軟な発想を受け入れる環境を整えることで、まちへの誇りや愛着の醸成につなげていきます。そして、子どもたちが自分の成長を有形・無形問わず何らかのカタチとして実感し、自身の未来を獲得していってほしいと願っています。

一方で、周りの大人たちが楽しく暮らしていてこそ子どもたちの健やかな成長があります。親や祖父母はもとより、普段子どもとあまり接点のないような大人たちまでもが互いに協力し合いながら社会全体で子育てしている、そういうことが当たり前にできるまちならば、みんなの心に余裕が生まれ、大人だって成長していくことができるはずです。

子どもと共に成長していった先には、ここで暮らしてよかったと誰もが思えるような、それぞれにとっての幸せのカタチが生まれている、そんなまちに町田市はなっていたいと考えています。

まちづくりの方向性①

子どもと共に成長し、幸せを感じることができる

なりたいまちの姿②

わたしの“ココチよさ”がかなうまち

東京の郊外に位置する町田市は、個性的なお店が軒を連ねる中心市街地で買い物や食事を楽しめる一方、市の北部などには豊かな自然があり、アウトドアライフを満喫することもできます。

また、大学や専門学校などが集積した学生のまちという側面や、サッカー、フットサル、ラグビーのホームタウンチームを有するスポーツのまちという側面、国際版画美術館をはじめ、史跡や郷土芸能などを大切にする文化・芸術のまちという側面もあります。

そして、小田急線とJR横浜線が交差する交通の結節点であること、新幹線駅に程近いこと、多摩都市モノレールが延伸することなど、移動利便性が高いという利点が、テレワークの普及などと相まって、市内に軸足を置きながら仕事ができる環境が整いつつあります。

このように町田市は、仕事、遊び、学びなどの拠点機能を備えており、ひとりでもみんなでも、何か行動を起こすのに最適なまちです。２０４０年においてもこの特性を土台に、思い思いの暮らしを描くことができる環境を提供し続けていきます。

ちょっといいちょうどいい暮らしの先には、それぞれにとってのココチよさがかなえられている、そんなまちに町田市はなっていたいと考えています。

まちづくりの方向性②

ちょっといい環境の中で、ちょうどいい暮らしができる

なりたいまちの姿③

誰もがホッとできるまち

国際化の進展や働き方の変化などによって、２０４０年の町田市は、より一層多様な人が集まるまちになっていることが見込まれます。

様々な境遇や考え方の人が暮らす中にあっては、必要とする人が必要な支え合いの輪に参加できてこそ、地域のつながりの力が発揮されると考えられます。そしてそれは、自ら進んで入っていきたくなるような、あたたかい寛容に満ちたつながりでなければなりません。

お互いを尊重し、それぞれがそれぞれにできることを行う、このことを大事にすれば、誰もが自分の役割や活躍の機会を得られる共生社会を形成することができるのではないでしょうか。

また、多様な背景を持つ人たちが、自分たちの暮らす地域のことを自分たちで考え決めていくことができれば、これまでなかったような地域ごとの特色が生まれ、居心地がいいと感じられる地域の選択肢が増えることにもつながっていきます。

人と人とがつながり、多様な価値を尊重し合える関係性の先には、誰もがホッとできる居場所を見つけられている、そんなまちに町田市はなっていたいと考えています。

まちづくりの方向性③

人と人とがつながりながら、多様な価値を尊重し合うことができる

■行政経営のあり方について

別紙４

行政経営のあり方

案１　共創により新たな価値を生み出す経営

案２　共創により新たな価値を生み出し、市民の生活をより豊かなものに

人口減少や人口構成の変化、価値観の多様化など社会構造が大きく変化していく中、行政経営においても、これまでにも増して多様な公共サービスを展開していくことが求められています。

このため、市民、地域、事業者など様々な担い手とともにまちづくりに取り組むことで、これまでにない新たな価値を生み出し、市民一人ひとりのニーズに適したきめ細やかなサービスを提供していくことが、これからの行政経営にとって大切なことであると考えます。

そこで、町田市の持つ情報をオープン化し、町田市の特性や課題を提示していくことで、様々な担い手が、その解決に向けて“投資したくなる”“関与したくなる”仕組みをつくります。

また、最先端の技術を活用し、公共サービスのスマート化を進めていくことで快適で利便性の高いまちを実現していくとともに、町田市の持つ魅力と強みを活かした公共サービスを広く展開していきます。

２０４０年に向けて、多様な主体と共に、市民一人ひとりに最適な公共サービスを展開していくことで、市民の生活をより豊かなものとし、市民それぞれの想いを実現できる、自主的・自立的な行政経営を目指します。

共創…市民や地域の方々だけでなく、団体や事業者など様々な担い手との対話を重ねながら、知恵を出し合い、ともに行動することによって新しい価値を創り上げていくこと。

行政経営の方向性

多様な主体と共に、町田らしい公共サービスを展開していく